



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●二つの姿をもつクラゲ

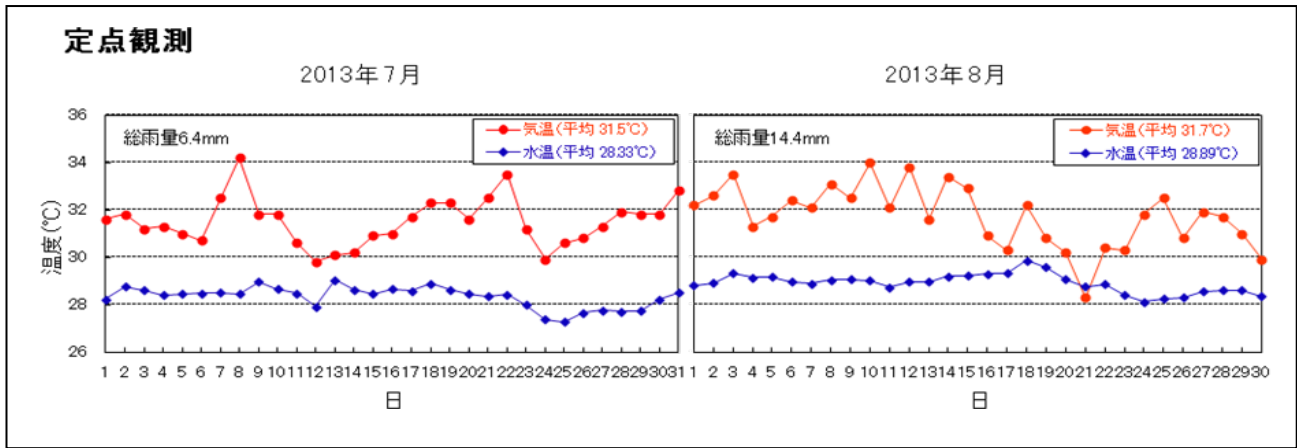
### ーミズクラゲー

夏休みも終わり、9月になったとたん秋めいてきました。この夏はサンゴの白化現象を心配するニュースが流れましたが、慶良間の海では、浅場にすむいくつかの種類がいくらか白くなっている程度ですし、先日の台風のおかげか、一時的にでも水温も下がっているの（阿嘉新港の外の水温は時には26℃台にさえなりました）、白化もこれ以上ひどくなることはないだろうと思われまます。先日ニシハマやアグで泳いだ時も、白化で死んだようなサンゴは見られませんでしたし、水温はこの時期としてはずいぶん低く感じました。そして、その涼しい流れのってクシクラゲや小さなクラゲの集まりがただよっていたのですが、その中に1種類だけ大型のクラゲがいました。ミズクラゲです。内地では、とてもよく見る

クラゲですが、慶良間で見ただのはずいぶん久しぶりでした。せっかくなので、今回はこのクラゲの話をしてしましよう。

ミズクラゲは、世界でもっとも研究されているクラゲでしょう。傘の直径は15~20cmくらい、大きなものでは25cmをこえます。胃袋が4つに分かれていて、傘の上から見ると四つ葉のクローバーのような模様に見えます。ところで、みなさんは、多くの種類のクラゲが一生を‘クラゲ’として暮らしているのではないということをご存知でしょうか。意外に多くの方が、クラゲはずっとクラゲとして生きていると思っているようですが、そうではありません。せっかくなのでミズクラゲを例にとり、そしてみなさんになじみの深い同じ刺胞動物のサンゴ（その中でもミドリイシの仲間にしてしましよう）と比べながら、クラゲの一生を見てみましよう。

ミズクラゲにはオスとメスがいて、オスから出された精子はメスの体の中に入り受精します。受精した卵はメスの保育のうという袋のなかで育ち、プラヌラ幼生になります。サンゴと同じ名前の幼生ですが、体のつくりはほとんど変わらないものの、長さはミドリイシサンゴでは1mmくらいあるのに対して、ミズクラゲのプラヌラは0.2~0.3mmしかありません。けれども、サンゴと同じように、クラゲのプラヌラもやがて海底などにくっついて、ポリプと呼ばれる小さなイソ



ギンチャクのような体のつくりになります。つまり、海の中をただようのではなく、海底で暮らすようになるのです。サンゴの場合は、その後、自分のまわりにクローンを作る「無性生殖」をくり返しながらサンゴ個虫の数を増やして、大きい‘群体’へと成長していきますが、ミズクラゲのポリプも無性生殖をおこなってクローンを作ります。具体的には、ポリプから新しいポリプの芽が出たり、2つに分裂したりしてクローンを作るのです。ただし、サンゴと違うのは、増えたクローンポリプが元のポリプからはなれて、それぞれ1つ1つのポリプに分かれるのです。ですから、サンゴのように群体を作ることはありません。ミズクラゲのポリプは、エサや水温や水質が良ければ、どんどん無性生殖をして、1個からものすごい数の集団に増えます。そして、やがて条件が整うと、ポリプにはいくつかのくびれができてきます。それぞれのくびれは8枚の花びらの花のような形になり、全体としては花を重ねたシャンデリアのような姿になります。‘花’の数は5~8枚くらい、多い時には10枚をこえます。やがてそれぞれの花はびくびく動くようになり、そしてついには、1枚また1枚と、ばらばらになって海の中に泳ぎだしていきます。これがクラゲの子どものエフィラと呼ばれるものです。つまり、ミズクラゲは1つのポリプから何匹ものクラゲ

を生み出すわけです。ようやくクラゲとしての生活を始めたエフィラは動物プランクトンを食べて、順調にいけば、やがてみなさんの知っている大きなクラゲとなります。こうして見ると、ミズクラゲはポリプの時期やエフィラを作る時期に、とてもたくさんに増えることができるわけですが、どういわけか慶良間ではあまり姿を見かけませんし、見かけても遠くから流されてきたような弱ったクラゲばかりです。その原因の一つは、エサとなる動物プランクトンが慶良間の海にはあまり多くなく、十分にポリプが育たないためかもしれません。

## ● 阿嘉島の海より

今年の夏は全国的な猛暑で、8月12日には高知県四万十市で国内最高気温となる41.0°Cが記録されました。また、大雨による被害が報道される一方で、ダム貯水量が減少し、取水制限のでた地域もありました。今年は沖縄も例年以上に暑い日が続きました。阿嘉島の降水量は、研究所で観測しているデータをみると、7月と8月を合わせても20.8mmしかありませんでした。一時は座間味村も断水になるのではないかと心配する声も聞かれましたが、梅雨時に降った雨と台風がもたらした雨によって当面の断水は回避されそうです。